

ACS 発症後時期による心臓 MRI のマッピング値変化の検討

当院では、以下の臨床研究を行っています。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、患者様への研究内容の情報を公開することが定められております。この研究は通常の診療で得られた検査の結果を調査し解析するもので、患者様を特定できるような個人情報を使用いたしません。また、この研究により患者様の診療に影響することはありませんのでご安心ください。

【研究責任者】華岡青洲記念病院 循環器内科 医長 管家 鉄平

【背景】

一般的に ACS 発症後の経過は、発症からの時間と血液データや心電図によって決定づけられる。しかし、発症時間の曖昧さなどからしばしば発症の時間と検査データとのミスマッチに遭遇することがある。ACS 発症後時期を明確に知ることは、治療方針を決定するにあたり予後に影響を与える重要な因子と考えられる。

近年、MRI の緩和時間を定量評価するマッピングを用いた心臓 MRI の有用性が多数報告されている。特に T1 緩和時間を定量評価する T1 マッピングや細胞外容積分画（Extracellular volume fraction : ECV）値の測定は心筋症診断において臨床利用が広がり、心筋梗塞においても高値を示すとされている。一方、T2 強調像は、炎症や心筋浮腫を反映しており炎症性疾

患や心筋梗塞の時期の鑑別に用いられているが、定性評価のため診断が困難なことが問題であった。T2 緩和時間を定量評価する T2 マッピングは、撮像が可能な施設が限られていることもあり報告は少ない。

【目的】

本研究では、ACS 発症からの経過時間により変化する心筋状態をマッピング値測定により検討する。これにより ACS 発症後時期による心筋障害の程度を定量化し、新たな診断評価ツールとしての確立を目指す。

【対象および方法】

対象は、華岡青洲記念病院で得られた 2019 年 11 月～2021 年 8 月までの ACS 患者（発症から 1 日～おおそ 1 年まで）の遅延造影、T1 マッピング、ECV、T2 マッピング用いる。臨床データおよび血液データとあわせて ACS 発症後の撮像時期によるマッピング値の変化を検討する。

【個人情報の取扱い】

検査から得られた情報は名前、住所など個人を特定できる情報を除いて匿名化いたしますので、個人情報が外に漏れることはありません。個人情報の安全管理と保護には万全を期します。研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容には個人を特定できる情報は一切含まれませんのでご安心ください。なお、この研究に診療データを提供したくない方、またはこの研究の内容につきご質問がある方は、下記の「問い合わせ先」へご照会ください。

【問い合わせ先】

華岡青洲記念病院 循環器内科 医長 管家 鉄平

〒062-0003 札幌市豊平区美園 3 条 5 丁目 3 番 1 号

Phone: 011-350-5858 FAX: 011-350-5855